

司

本日の学び：「弱い人々のための自由」 テキスト：第一コリント8章7-13節

【理解の手がかりとして】

本課のテキストは8章7～13節であるが、その前提を理解すべく1節より含めて以下釈義する。

8章に入りパウロはまったく前置きなしに新しいテーマを取り上げる。それは「供え物の肉を食べること」についてである。この問題は、当時の異邦人キリスト者の集会においては、極めて重大な事柄であった。異教祭儀の影響は社会生活の隅々にまで行き渡っていたので、キリスト者はしばしばそれとの区別(対決)が必要とされていた。その中で、食べることに関する問題はより切実であった。

コリント教会のグノーシス主義者たちは、信仰の知識を誇り、「我々は皆、知識を持っている」(8:1)と誇っていた。パウロはそれを引用し、その考えを尊重しつつも、しかしそこに欠けていることを指摘する。それが「愛」である。「知識を絶対化する人々がおちいる危険は、高ぶりと、極度に熱狂的な自我意識と自由の意識である。それゆえ知識は愛に結ばれ、愛によって制限を受けなければならない。愛は集会の徳をたてるが、グノーシス(知識)だけではそうではない。愛は兄弟の交わりを固くする。それは人を宗教的高ぶりから解放して、奉仕に至らせる」(NTD 注解より)。

コリント教会には「自分は何か知っている」と奢っている人がよっぽど多かったのだろう。その鼻柱をパウロは折る。「その人は、知らねばならぬことをまだ知らない」と。この「知らねばならぬこと」とは何か。それが「愛」である。

「神を愛する人がいれば、その人は神に知られている」(8:3)とは非常に意味深い。この「神を愛する」に使われる原語は「アガペー」であり、愛を表す言葉の最高のものである。そしてその愛を実践

するものは、「神に知られている」という。この「知られている」とはどういうことか。それは「救い」と言い換えても良い。マタイ福音書 25:31 以下の愛なき人々への裁きを思い起こす。愛とは、自分の救いのために積み上げる功績ではない。それは人(自意識も含めて)知れず、神にのみ知られていることである。そしてその「神への愛」は、隣人に向かうものであるとき、神の喜びとなる。→マタイ 25:35-36。

4-6 節にはグノーシス派が誇る信仰的知識の内容が列挙される。パウロはある意味その信仰に同調する。パウロの信仰は非常に自由で、かつての律法主義に縛られていない。いかなる異教的なものに囲まれようとも、頑として揺るぎなき唯一神信仰者である。またその神が遣わしイエス・キリストを「唯一の主」とあがめるキリスト者である。グノーシス主義者たちもまた、このような信仰的確信、揺るがない強さを誇っていた。しかし問題は、彼らがその強さを誤った仕方で誇示しようとしたことである。すなわち「他の神々など関係ない(いない)。だからその習俗を我らが行っても何の影響もない。その自由を実践しよう」と。

教会とは共同体である。決して一人ではない。他者が共にいる。そしてそこには信仰の段階の様々な者がいる。先の知識(揺るぎなき唯一神信仰)は、そのすべてのものが到達すべきものであるが、そう簡単ではない。それまでの異教的生活観念から完全には自由になれない途中経過の信仰者もいる。この段落でパウロが言うのは、その人々への配慮である。いまだその「偶像」の影響力、「供えられた肉」の意味を強く感じる者にとって、それを全く相対化して自由に食することは、難しい。それぞれの段階、それぞれの立ち位置をよく認識し、良い影響を与えるよう配慮しなければならないし、それができることが、真の愛なのであろう。「兄弟をつまずかせないために」(8:13)という一語が、パウロの牧会者としての愛を映している。

それぞれに、パウロのような「つまづかないように」配慮してくれた信仰者との出会いはあっただろうか。あれば分かち合ってみよう。また、今度は自らが誰かに対して「つまづかせない」配慮で苦心していることがあれば分かち合ってみよう。また、信仰には段階がある。立ち止まっている所から、あるきっかけで一歩進ませられる、そういう出来事・経験を分かち合ってみよう。

『聖書教育』より

- 「『知識』『自由』を振りかざして他者を戸惑わせ傷つけること、裁くことをパウロは警戒したのではないのでしょうか。パウロは他者をイエスさまから遠ざけるくらいなら、自身がふんだんに持っている『知識』も『自由』も引っ込めようとするのです。そこにはイエスさまのくださる『愛』に根ざした他者への『愛』が感じられます。・・・共同体のメンバーが、それぞれの理屈や信念でお互いを裁き合うのではなく、何より『愛』によって結び合わされ、イエスさまをかしらとする信仰の共同体として建て上げられていくことを祈ったことでしょう。」
(聖書の学び～すべての事柄に『愛』を)
- 「他宗教への葬儀への参列、会社や町内会などの宗教的行事への参加、そのほか、私たちが『キリスト者としてどう立ち振る舞ったらよいのだろう』と困惑するのは、どのような場面でしょうか。」 (大人クラス)

【報告・祈りの課題】

1. 世界平和、一日も早い戦争状況の終息、停戦、終戦のために。緊迫するイスラエル情勢のために。

地震の被災者のために。
2. 教会設備（礼拝のための器）が守られるように。～空調システム更新工事計画のために。
3. 教会墓園拡張計画が祝されるように（申し込み期限4月末）。
4. 4/14 生活支援無料バザーを多くの方にご利用いただき感謝して

5. ミッションスクールの歩みのために～4/18 西南女学院 102 周年記念式典

6. 4/21 (主) CS、主日礼拝〈相模原 (斎藤協力牧師) ・会堂 (宣教:吉田牧師) 〉、部会、部長
会・役員会

7. その他 (個々人の祈りの課題)

| |
|--|
| |
|--|